

# 安全管理

## ー平成 26 年度クレーン年次点検報告ー

### 技術部クレーン点検 WG

#### 1 はじめに

技術部クレーン点検WGでは、クレーンの使用状況に応じて、熊本大学指定の点検フォーマットにより、月次および年次の定期自主点検を実施している。しかし、クレーン本体ならびに走行レールなど高所にあるものの点検はリスクが高く、また、ワイヤロープなどの各種部品の経年劣化については、大学のような使用頻度が少ない環境では、良否判断が困難な状況にある。前述の状況より、平成 26 年度も工学部安全・環境保全委員会にて、クレーンの年次点検について予算化いただき、WGにて使用頻度などを調査し、2 台のクレーンについて、専門業者による年次点検を実施したので報告する。

#### 2 年次点検結果

○工学部研究実験棟 I 構造材料実験室

- ・日立ホスト 2.8LS-TS55（定格荷重 2.8t）
- ・立会者：戸田（技術部クレーン点検 WG）、  
池崎（技術部クレーン点検 WG）

点検結果：問題なし



写真 1 構造材料実験室の点検状況

○自然科学研究科実験棟 環境防災実験室

- ・東洋ホスト YH-28H ET-77（定格荷重 2.8t）
- ・立会者：戸田（技術部クレーン点検 WG）、  
池崎（技術部クレーン点検 WG）

点検結果：問題なし



写真 2 環境防災実験室の点検状況

#### 3 おわりに

今回の年次点検では、2 台のクレーンとも問題はなかった。点検した 2 台のクレーンは、設置場所での各種実験の関係上、使用頻度が高く、吊り荷重も大きい。よって、この点検結果は、使用者および点検者にとって大きな成果と言える。年次点検は、継続して実施しており、点検業者（点検者）は変えていない。継続した実施と点検者が変わらないメリットは、過去の点検情報を基にした適切な点検の実施などが挙げられる。

クレーンは、おおよそ人の力では動かせないものを動かすための機械である。よって、使用者や技術部点検 WG（点検者）には、精神的な負荷も大きい。点検者の負荷低減、安全確保のため、次年度も専門業者による点検の実施を委員会に要望し、WGにおいても適切な点検実施および点検技術の向上に努めていく。

文責 クレーン点検WG 戸田善統